

1 都市計画マスタープランとは

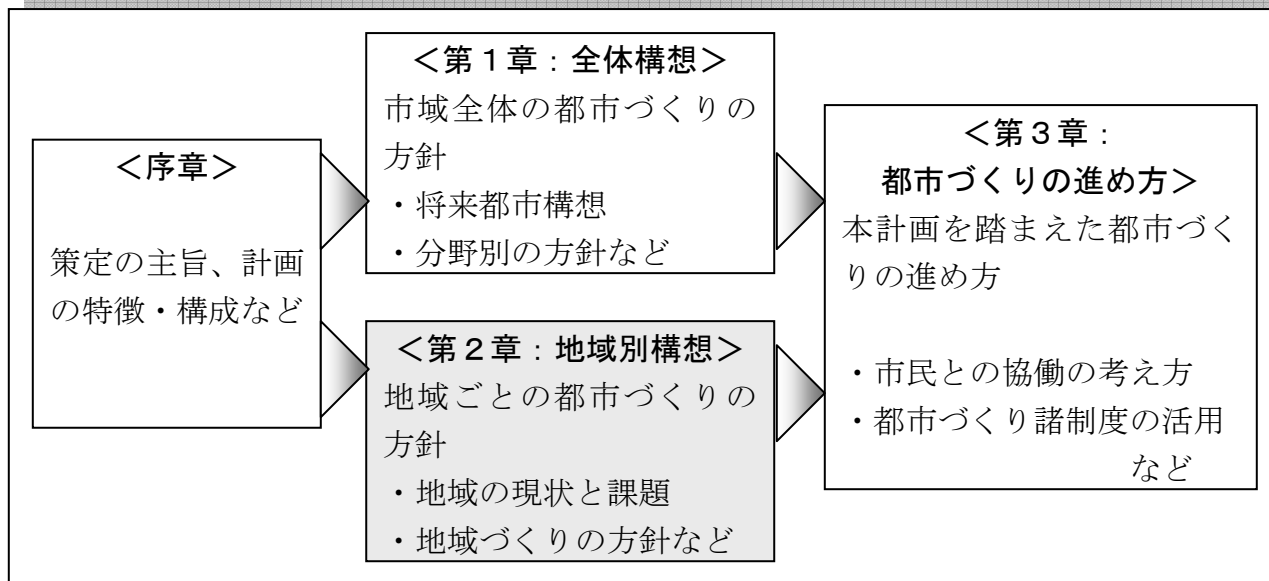
- 都市計画マスタープランは、10年、20年後の長岡市を、もっと住やすいまちにするための設計図です。
- このプランでは、市総合計画の考え方を踏まえながら、土地の使い方や、道路・公園・下水道などの整備に関する基本的な方針を定めます。

- 山古志・小国地域は、都市計画区域の指定がないものの、次のような理由から本マスタープランの対象区域に含めるものです。
  - ①市域全体の都市づくりの方向性を検討するにあたり、特に環境、景観、防災などの分野において、両地域の担う役割が大きいこと。
  - ②個性と魅力ある地域づくりに向けて、今後の土木・都市分野の整備方針を明らかにする必要があること。

2 対象区域・計画期間

- 対象区域：長岡市全域
- 計画期間：平成22年～31年（10年間）

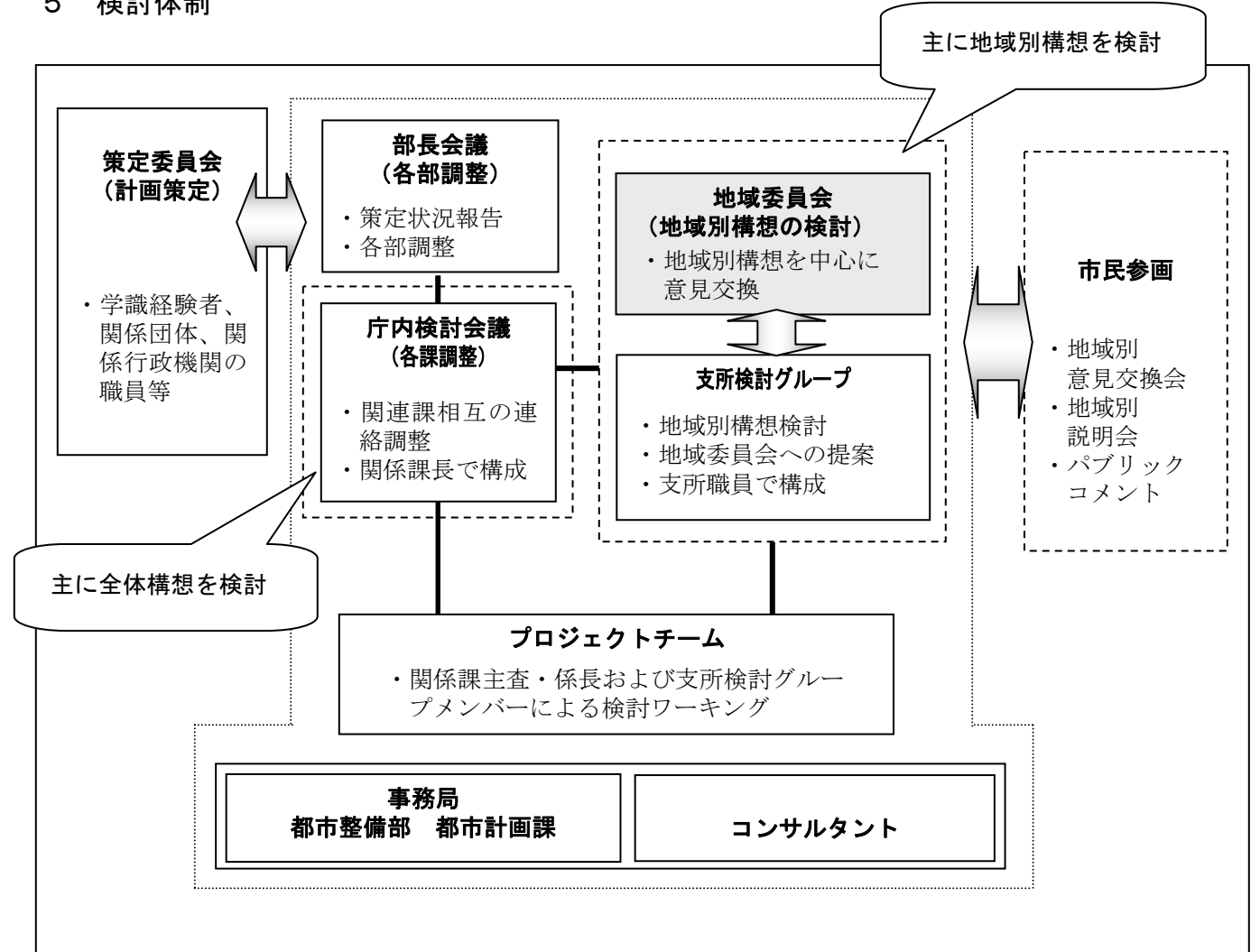
3 マスタープランの構成



4 「地域別構想」の内容

- 地域の概要
- 地域の現状と課題
- 地域づくりの方針  
(地域ニーズを踏まえた、今後10年間の都市整備の基本的な方針を示します。)
- 地域づくりの方針図

5 検討体制



6 今後の進め方(予定)

時期	対象	内容
8月28日 (本日の内容)	地域委員会	都市計画マスタープラン策定の趣旨説明
9月中旬～下旬	地域委員会 地域住民	第1回地域別意見交換会の実施 (地域の現状と課題の抽出)
10月上旬	地域委員会	地域別構想の検討① (たたき台の検討)
10月中旬	地域住民	第2回地域別意見交換会の実施 (たたき台の検討)
11月	地域委員会	地域別構想の検討②
12月上旬	策定委員会	地域別構想の検討(市内16地域)

# 私たちの手で プランする。



## ● はじめに

長岡という“まち”をどのようなまちにしていきたいと考えていますか。

都市計画マスタープランは、未来の長岡市の設計図。将来のまちの姿を、この機会に一緒に考えましょう。

## ● 子どもたちの未来のために

まちづくりは、構想・計画の段階から、実際にまちが形づくられていくまで、長い時間を要します。

都市計画マスタープランは、今の子どもたちが大人になったときの長岡の姿を決める、大切な計画です。

## ● 意見交換会を開きます

この意見交換会は、普段の生活の中で私たちの“まち”はここがこうあってほしいと考えていることを話し合う場です。例えば、「もっと緑豊かなまちにしたい」、「にぎわいのあるまちにしたい」、「お年寄りが暮らしやすいまちにしたい」など、身の回りの環境に対して望むことを話し合います。

みなさんの「長岡をこんなまちにしたい」という思いをお聞かせください。

## 地域別意見交換会の開催について

地域の問題点や、将来像について  
話し合しましょう。

### 例えば

- ・公園や広場が少ない。
- ・子どもが安心して遊べない。
- ・身近に買い物する場所がなく、不便である。
- ・地域に働く場所がない。
- ・車や工場などの騒音・振動で困っている。
- ・地域に若者が定着しない。

- ・地域の資源を活かした“まち”をつくりたい。
- ・もっと緑豊かな“まち”をつくりたい。
- ・安全で安心できる“まち”をつくりたい。
- ・活力・にぎわいのある“まち”にしたい。  
など…

## 第1回地域別意見交換会

- 地域の現状(良い点・悪い点)について
- 地域の将来イメージについて

問題点の把握  
地域の将来  
イメージ

## 第2回地域別意見交換会

- 地域の将来像の方向性について

地域の将来像



## 地域別説明会

- 地域の将来像について

マスタープラン  
原案の作成



## 都市計画とは何か？

『都市計画』とは、私たちの日常生活に密着している、道路、公園、下水道などの公共施設の整備や、住宅地、工業地、商業地など、建築物の立地の基本となる土地の使い方に関する計画を行うものです。

長岡市の全般にわたり「より快適で秩序あるまちづくり」を目標としています。

## 都市計画マスター プランとは何？

長岡市のまちづくりの指針「総合計画」のうち、土地の使い方や道路・公園などの整備といった、都市計画分野のまちづくりを受け持つプランです。

おおむね20年後のまちのあるべき姿を見据えて、今後10年間の計画を定めます。

## 都市計画マスター プランがなぜ必要か？

快適なまちづくりを実現するためには、土地の使い方のルールを定めたり、道路や公園、下水道などの整備を継続的に行わなければなりません。

これらの計画を進めるにあたっては、順序よく、効果的に進めることが必要です。その基本方針として、『都市計画マスタープラン』が必要なのです。

# 03 山古志地域の景観スポット

山古志地域の美しい景観を、住民だけではなく外来者も含めて共有するために、代表的な景観スポットの整備をしていくことも有効な方法です。

景観スポットとしては、地域全域を見渡すことのできる場所、山並みのすきまから越後三山などが遠望できる場所、美しい棚田・棚池を望むことのできる場所、震災の痕跡や新しい集落を望むことのできる場所など、いくつかの場所が考えられますので、これらの箇所を含む景観スポットの整備について考えていきましょう。

地域全域や遠くの山並みを望める場所



新しく移転した集落を望める場所



美しい棚池群を望める場所



山並みのすきまから越後三山を望める場所



震災以前の旧集落跡地を望める場所



地域の山並みや美しい棚田を望める場所



# 長岡市山古志地域デザインガイドライン

中越大震災から5年近くがたち、山古志地域にもようやく静かな生活が戻ってきました。住宅をはじめ、道路や農地、養鯉池の復旧がほぼ完了したことから、今後は、山古志地域特有の美しい景観を生かして、更なる地域づくりに取り組むことが重要です。そこで、山古志らしい景観を大切に、未来に引き継いでいくための手引きとして、長岡造形大学の協力を得て、このガイドラインを作成しました。

## 01 山古志地域特有の景観

### その1 自然が作り出した景観

山古志地域は自然が作り出した複雑な地形になっています。山々の稜線と沢沿いの川との間には、小さな台地のほか、いたるところに急な斜面や崖地状の地形が見え隠れしています。



典型的な山古志地域の景観（古志高原スキー場頂上より虫亀方面を望む）

### その2 人々のなりわいの積み重ねにより作られた景観

山あいの地域に人々が生活を営むことで、山古志の景観はつくられてきました。その結果、「棚田」「棚池」「杉林」「集落」が織りなす日本の原風景ともいべき美しい山里の風情をかもしだしています。

棚田



棚池



杉林



集落



## ○ポイントは色・形・素材

山古志らしい景観を生かすためには、「色」「形」「素材」に配慮して、建築物などをできる限り周囲の景観に調和させていく必要があります。

そこで、これらを進めるにあたり具体的な取り組み内容を、「集落や家」、「田畑や池」、「まわりの自然」の3つに分けてまとめてみました。



## 集落や家のこと

## 住宅

木造を基本とし、壁・屋根の色調は、茶系の色をベースに、自然素材や白壁を使用しましょう。また、屋根は傾きのある屋根とし、集落全体としての色や形の調和を整えましょう。



## 庭・家のまわり

庭や家のまわりに草花等の植栽を行い、集落全体の景観を美しく整えましょう。



## 倉庫・小屋

かまぼこ型の倉庫も豪雪地帯特有のものです。住宅と同様に原色は避け、茶系の色など落ち着いた色調とし、集落や農地との景観の調和に配慮しましょう。



## 道路

道路の法面や脇の歩道は、芝や草花の植栽を行うことにより、美しい沿道景観が形成されます。



## 田畑や池のこと

## 棚田・棚池

棚田・棚池のあぜ道は土とし、緑化をしましょう。また、除草剤の使用を極力避け、美しい田園景観を守るとともに、生物が生息する環境を維持しましょう。



## 作業小屋・養鯉小屋

作業小屋や、鯉の越冬小屋も、木造を基本とし、落ち着いた色調としましょう。それによって、集落や農地など、周辺景観との調和をはかることができます。



## 杉林

はざかけを行わない杉であっても、下枝の管理を適切に行い、美しい景観を維持しましょう。



## まわりの自然のこと

## 川・水路

山古志地域には小川や小さな水路が数多くあります。これらの水辺は、美しい景観と生物が生息する環境を確保するためにも、できるだけ自然な状態で維持しましょう。



## 里山・ブナ林

ブナや落葉樹などの里山は、山菜やキノコの宝庫であるとともに、生物多様性の重要な場所となっています。そのため、間伐や下草などの適切な維持管理をしましょう。



## 稜線

稜線は、遠景を望む上で最も重要な要素です。山並みの美しい線形を乱さないよう配慮することによって、この地域全体のまとまりある景観が形成されます。

